

アクション・プラン編

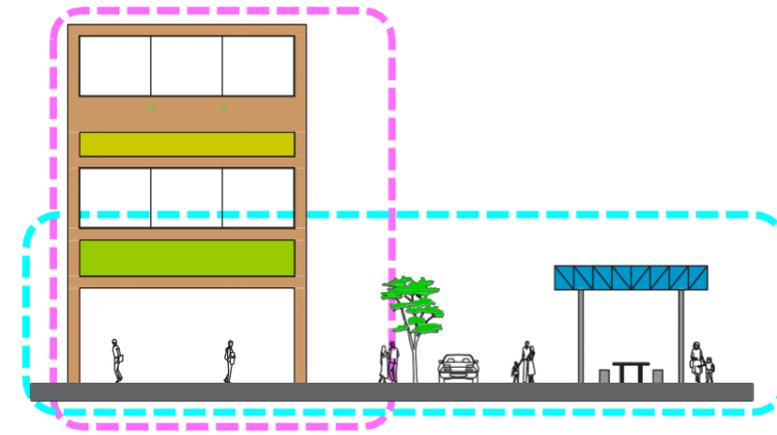
8. アーバンデザイン・ガイドライン
9. モデルプロジェクト
10. 実現に向けた取り組み

8. アーバンデザイン・ガイドライン

アーバンデザイン・ガイドラインとは

このガイドラインは、将来像を実現させるために必要な個々のデザインやしつらえの配慮すべき視点について示したものです。ひとつひとつの建物や街路、オープンスペースもまちの空間づくりに寄与しており、工夫によって賑わいを生むきっかけになります。

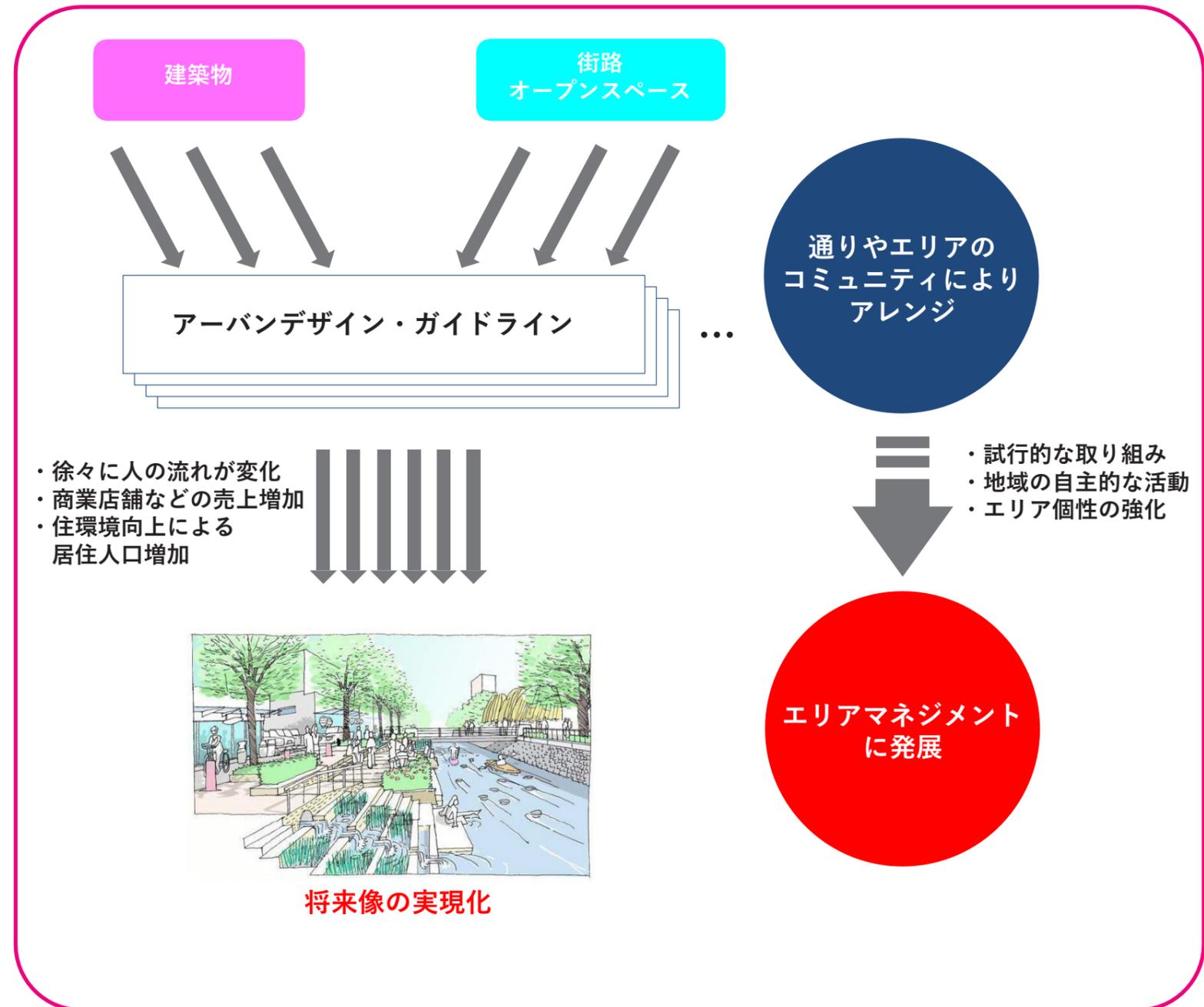
ガイドラインを参考にしたデザインをまずは試行的に取り入れることで、徐々に新たな人の流れができ、活気生まれ、居心地の良い屋外空間が創出されることを期待します。こうした取り組みを更新していくことで、将来的には通りやエリア毎で育ったコミュニティによりアレンジされ、エリアマネジメントなどの地域まちづくりに発展していくことを期待します。



ガイドラインの無いまちづくり



ガイドラインのあるまちづくり



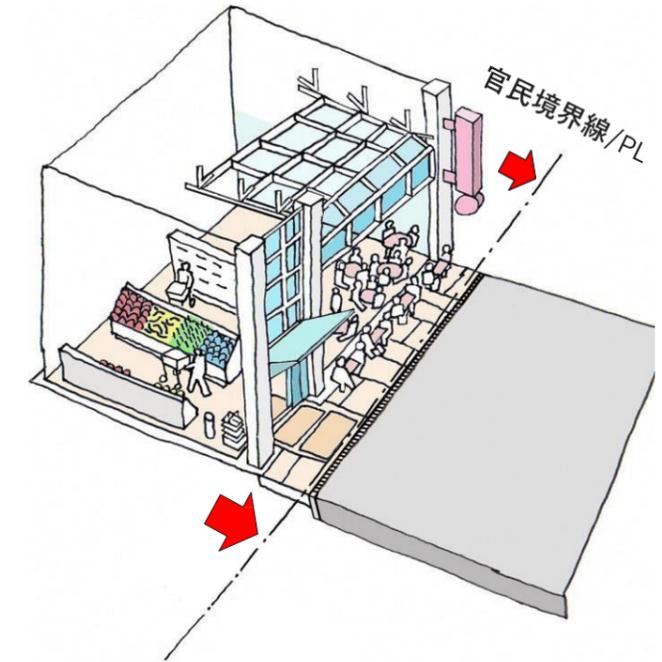
アーバンデザイン・ガイドラインとは

アーバンデザイン・ガイドラインで示す項目と指針を以下に示します。

まずは出来ることから意識して始めましょう。そして、まちの個性を生かすようにエリアや通り等のコミュニティ単位で活用していきましょう。

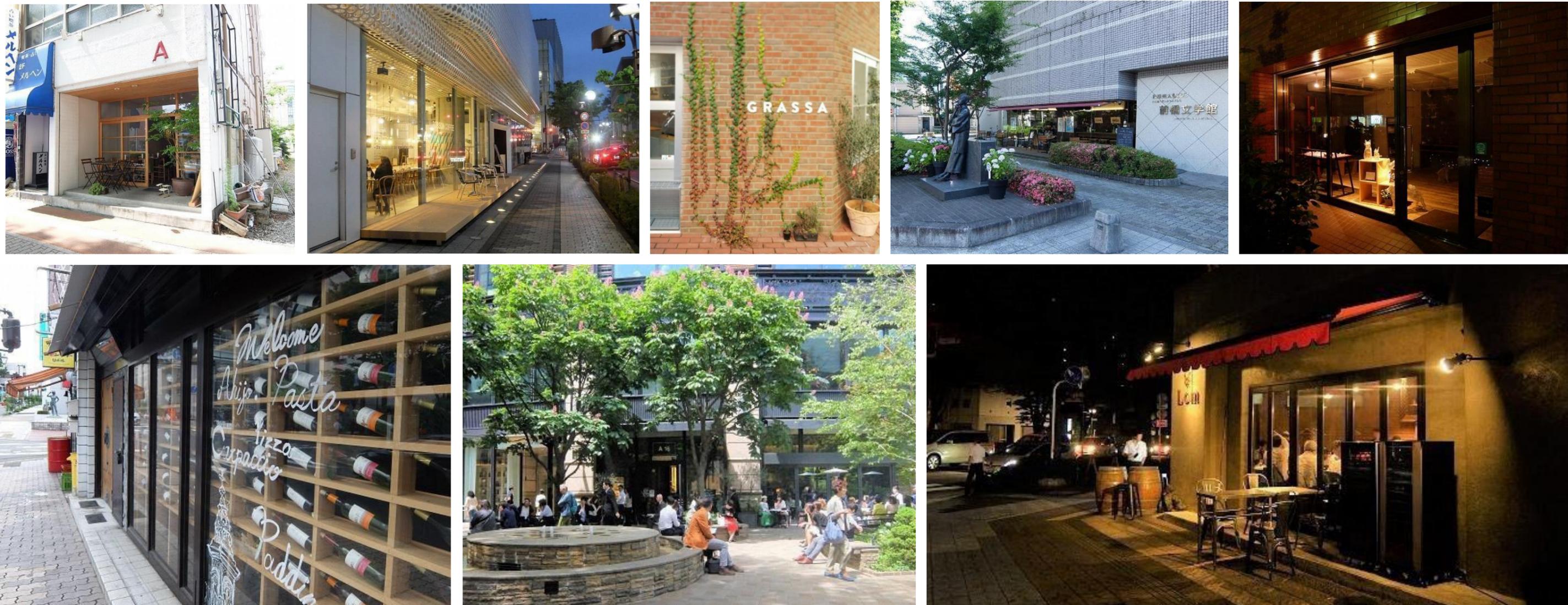


項目	指針	
1. 建築物	A. 屋内外のつながり促進	a. セットフロント
		b. 開口
		c. 配置
		d. 夜間や閉店時
	B. 地上階の賑わいの創出	a. 用途
		b. 出入口
		c. 緑化
		d. ショーウィンドウ
	C. 中心市街地の特長強化	a. ボリューム
b. 街角のしつらえ		
c. リノベーション		
2. 街路や オープンスペース	A. まちを歩きたくなるような賑わいの演出	a. アメニティ
		b. イベント
		c. 中庭
		d. パブリックアート
	B. 自然環境への配慮	a. 緑化
		b. 水
		c. 環境配慮



1. 建築物

<p>A. 屋内外のつながり促進</p>	<p>街路に対する建物の配置や開口などにより、建物内の賑わいが屋外に漏れ出し、建物自体とまちがゆるくつながるような工夫をします。</p>
<p>B. 地上階の賑わいの創出</p>	<p>街路を通る歩行者に対する地上階の賑わいや緑の演出の連続性などにより、昼夜を通して楽しめるまちの創出を目指します。</p>
<p>C. 中心市街地の特長強化</p>	<p>建物のボリュームコントロールや街角のしつらえを考慮した建築要素の使用、リノベーションを推進することにより、中心市街地の固有の魅力を高めます。</p>



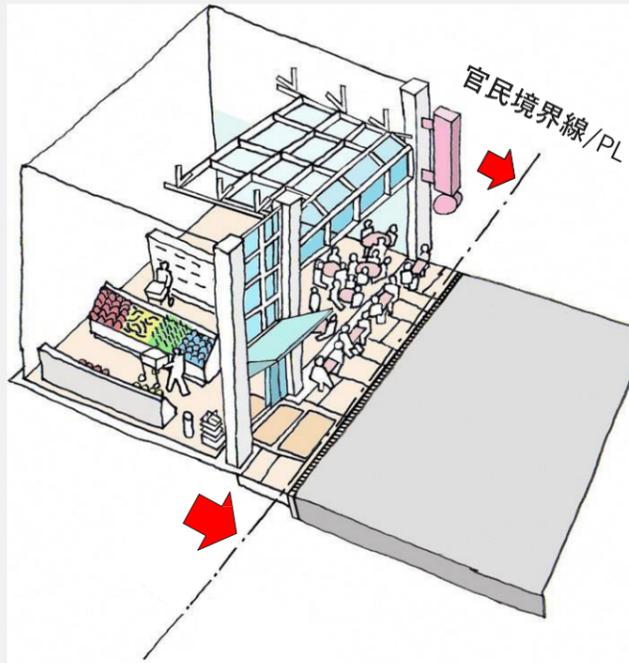
1. 建築物

A. 屋内外のつながり促進

a. セットフロント

前進し賑わいを外へ出そう

建物の外壁面をセットフロントさせ、地上階の賑わいを歩道に出来る限り近づけましょう。これにより、賑わいが歩道に漏れ出たり、屋外の歩行者が行き交う光景を屋内の人が楽しめたりすることが、街路の賑わい創出につながります。また、それが更に人を惹き付けて賑わいの相乗効果を生みます。



A. 屋内外のつながり促進

b. 開口

開口を大きく取ろう

建物低層階では、開口部（透明なガラス窓、ガラスの入口、引き戸など）の面積を大きく取りましょう。これにより、屋内の賑わいが屋外に漏れ出ることを促進します。外から屋内が良く見えるため、商品やサービス、レイアウトの工夫で大きな効果があります。



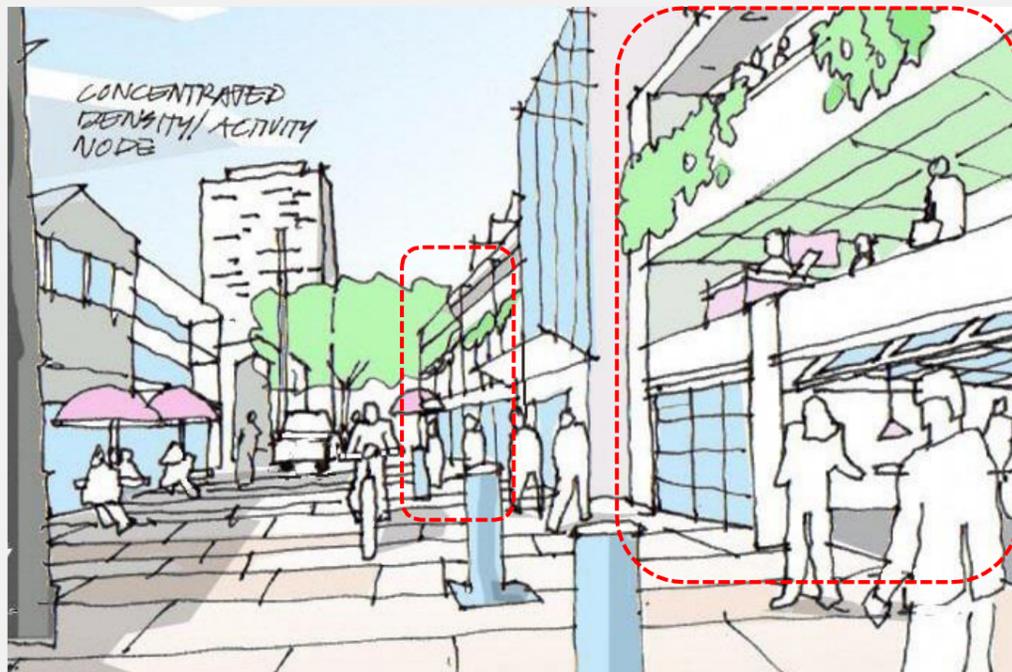
1. 建築物

A. 屋内外のつながり促進

c. 配置

まちに向けた配置計画をしよう

建物内の賑わい機能を、街路や広場などのオープンスペースに沿って配置するとともに、2階より上階でも窓やバルコニー、屋上庭園などをオープンスペースに向かって設けましょう。屋内外がゆるくつながることで、閉鎖感を軽減し、まちの表情を和らげます。



A. 屋内外のつながり促進

d. 夜間や閉店時

閉店時にも配慮を

街路に面する景観を大切に、閉店時にも極力明かりを灯し、店頭のディスプレイが見えるよう配慮しましょう。魅力ある商品でまちの景観の演出ができるとともに、防犯対策にもなります。タイムシェアによる閉店の時間帯の有効活用もまちの賑わいに効果的です。また、閉店時は中の見通しがきかなくなるようなシャッターなどの使用は避けましょう。



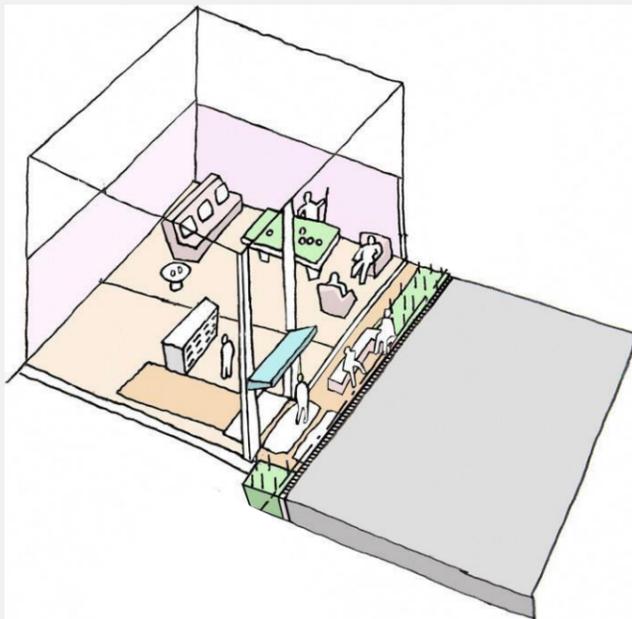
1. 建築物

B. 地上階の賑わいの創出

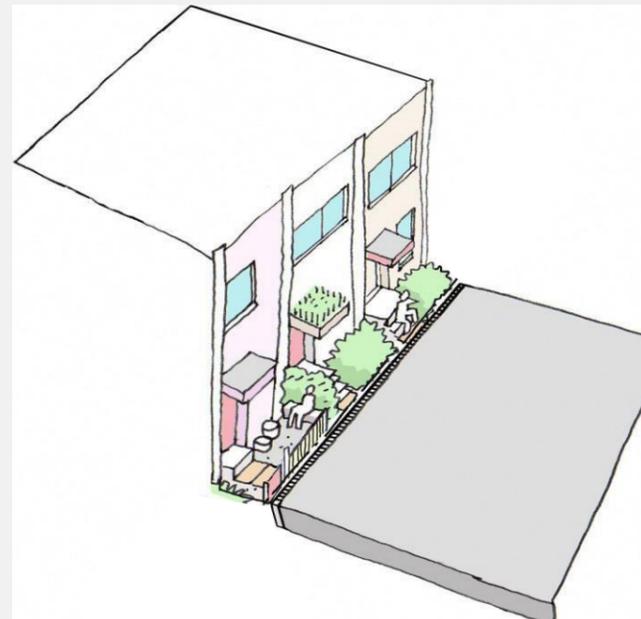
a. 用途

賑わい用途を配置しよう

建物の地上階には、賑わい用途を配置しましょう。賑わい用途とは、オフィスや集合住宅のロビー、商業店舗、集合住宅のテラス、ギャラリー、シェアオフィス、ホテルや美術館、映画館などのロビーを含みます。人が居る様子が見えることが大切です。



ロビーを賑わい機能として活用する例



集合住宅のテラスを活用する例

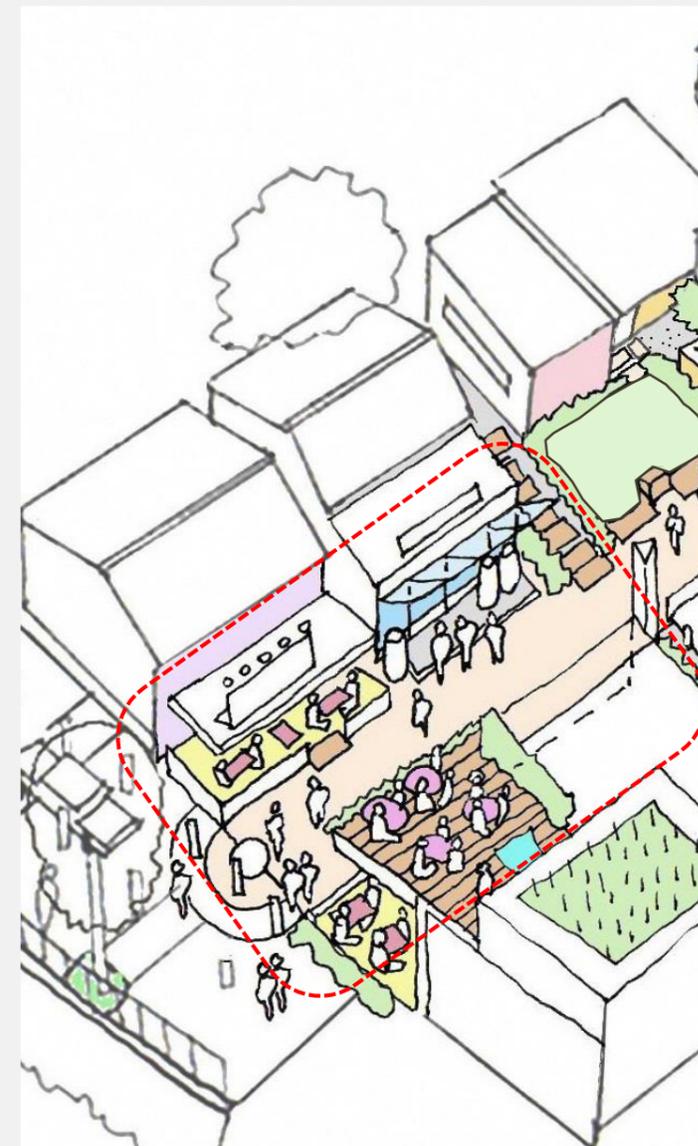


B. 地上階の賑わいの創出

b. 出入口

街路からそのままアクセス

店舗は街路から直接出入りできるようにしましょう。セットフロントした店先がそのまま出入口となることで、利用者にとって明快で分かりやすく、利便性が向上します。このような店舗が街路に沿って並ぶことで、連続した賑わいの創出になります。



1. 建築物

B. 地上階の賑わいの創出

c. 緑化

まちを緑で演出しよう

街路沿いの建物は、緑を感じられる演出をしましょう。店先の空間に植栽をしたり、壁面緑化をすることで、緑豊かな前橋らしさのある街並みになります。鉢を置いたり、フラワーボールを吊るしたり、小さな取り組みから始められるので、楽しみながら手を加えていきましょう。



B. 地上階の賑わいの創出

d. ショーウィンドウ

店舗の魅力も漏れ出そう

街路沿いには、店舗の魅力が溢れるショーウィンドウやディスプレイ、創造性に富んだ壁画などを設けましょう。歩行者に対し視覚的に楽しい演出をすることができるとともに、店舗利用にもつながります。また、地域固有の資源を生かした商品やサービスを提供することを推奨します。



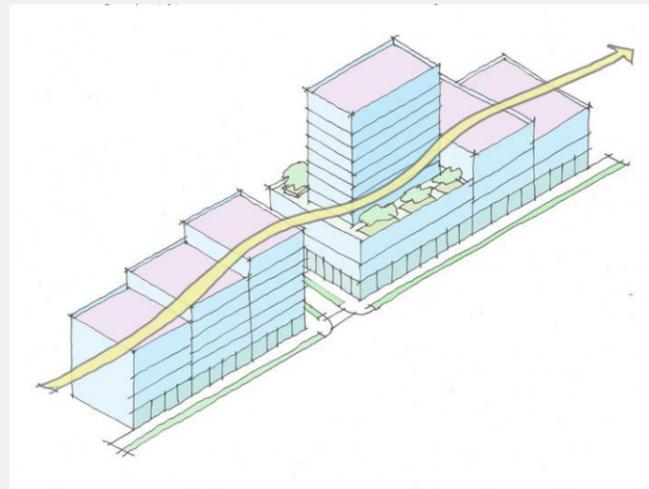
1. 建築物

C. 中心市街地の特長強化

a. ボリューム

エリアのボリューム感を保とう

建物はエリアの特性に合わせたボリュームにしましょう。中低層の建物は、高層建物に比べ、空が大きく広がり、人の滞留や賑わいが生まれやすいです。また、高層建物を計画する際には、低層棟の隣接や、低層基壇部を作り高層部と組み合わせ、周囲の建物とのボリュームを揃えることを推奨します。



C. 中心市街地の特長強化

b. 街角のしつらえ

街角にアイキャッチを

街区や建物の角は特徴的なしつらえにしましょう。歩行者が歩きながら楽しめるように、アイキャッチとなるコーナー部の壁面の工夫やディスプレイ、まちの雰囲気合ったサイン、日よけやひさし、ベンチなどを設置することで、街角の表情に工夫が生まれます。



1. 建築物

D. 中心市街地の特長強化

c. リノベーション

既存の建物を生かそう

既存の建物はクリエイティブにリノベーションしましょう。古い建物が商業店舗、シェアオフィス、ゲストハウスやギャラリーなどに変わることで、エリアの魅力が高まります。まちの記憶である古い建物を残し、新しい魅力を創造することを促進します。このような物件が創造拠点として機能することで、新たな前橋中心市街地の魅力創造にもつながります。



2. 街路やオープンスペース

- A. まちを歩きたくなるような賑わいの演出
- B. 自然環境への配慮

街路やオープンスペースは、視覚的に寂しいと歩きたい、立ち寄りたと思えず、賑わいにつながり辛い。視覚的に空いている空間をテーブルやベンチ、屋台、植栽、キッチンカー、アートなどで埋め、歩いて楽しめるような演出をすることで、幅広い年齢層の人々が行き来し、滞留できるようにします。

植栽や樹木などの配置、川や噴水などの水の活用により、屋外空間が健康的で居心地良く、環境に優しい場所になることで、人を惹き付けます。そのような取り組みは、大気浄化効果やヒートアイランド現象の抑制効果などがあり、エコ・ディストリクトの実現にもつながります。



2. 街路やオープンスペース

A. まちを歩きたくなるような賑わいの演出 a. アメニティ

屋外にアメニティを置こう

賑わい活動を屋外で楽しめるようにアメニティを配置しましょう。街路では、建物屋内の賑わい活動が外へ漏れ出るように屋外空間へベンチやテラス席のアメニティの配置を推奨します。オープンスペースについても、キッチンカーや屋台を集積させた屋台村エリアを作り、利用者が交流できるようにアメニティを配置することで、溜まる空間が作られ、賑わいが活性化されます。アメニティの近くでは、テイクアウトで楽しめるドリンクやフードの提供をしましょう。



A. まちを歩きたくなるような賑わいの演出 b. イベント

イベントで相互交流を促進

街路およびオープンスペースを使って定期的にイベントを開催し、地元商業と地域コミュニティの相互交流を促進しましょう。こういった取り組みを継続することでシビックプライドが高まり、ローカルファーストの意識醸成を促します。



2. 街路やオープンスペース

A. まちを歩きたくなるような賑わいの演出

c. 中庭

中庭で奥行きのあるまちを演出

敷地に余裕があれば建物に沿って中庭やテラス空間を設け、緑のある屋外空間での活動を促進しましょう。安らぎや癒しの屋外空間が演出された場所は、奥行きがあり、魅力的なまちの演出となります。天気の良い日は、そこで過ごすための目的地にもなり得ます。

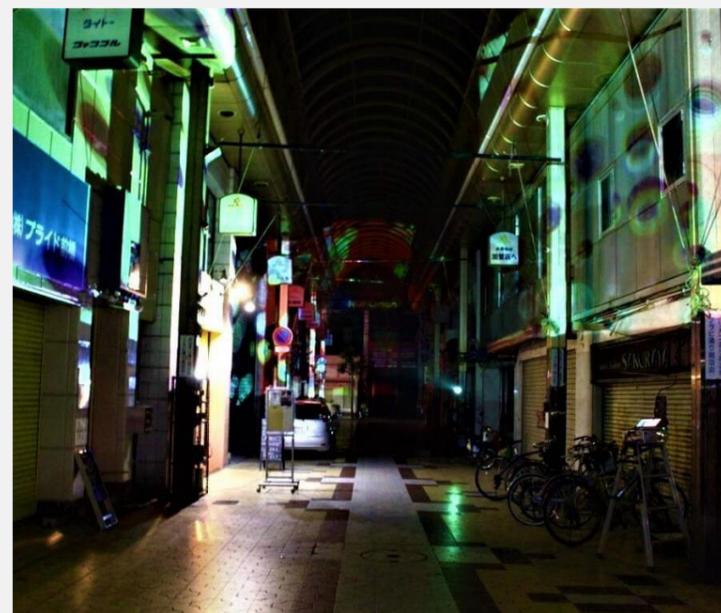


A. まちを歩きたくなるような賑わいの演出

d. パブリックアート

アートでまちにアクセントを

街路沿いの民地内オープンスペースにはパブリックアートを置きましょう。空地、駐車場、テラス、公開空地などの屋外空間における視覚的体験が向上します。イベント時にプロジェクトアクションマッピングで演出することも効果的です。



2. 街路やオープンスペース

B. 自然環境への配慮

a. 緑化

緑化による環境配慮

街路だけでなく、オープンスペースにも樹木を多く配置し緑化しましょう。連続的な樹冠による日陰をつくり、自然とのつながりが強化され、バイオフィリア(※)的なリラックス効果が高まり、まちの居心地を向上します。これはオフィスや店舗などの屋内空間でも効果的です。



※バイオフィリア

人間は本能的に自然や生物とのつながりを求めるという考え方。

B. 自然環境への配慮

b. 水

親水性を高めよう

河川空間の活用や水に触れる場などにより、親水性を高めましょう。”水”を讃えることで前橋らしく特長的な都市環境を創り出します。水辺でイベント開催することも前橋らしさにつながります。



2. 街路やオープンスペース

B. 自然環境への配慮

c. 環境配慮

環境に優しい取り組みを

アスファルトやコンクリートの舗装面を減らし、レインガーデンなどの雨水浸透緑地帯や雨水浸透舗装を取り入れましょう。そうすることで、温熱環境の改善やヒートアイランド現象を抑えます。そしてそれらを都市のアメニティとして利用することが”環境に優しい”側面を創り出します。また、豊富な自然環境を活用した再生可能エネルギーを取り入れることも有効です。

